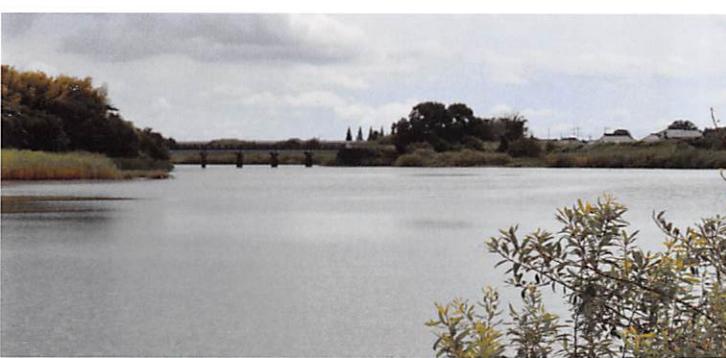


## 美しい自然と自然災害

日本は自然環境に恵まれその自然の恩恵を受けてきました。しかしそれと同時に自然災害とは切っても切れない環境であることも認識しなければなりません。しかも近年の地球温暖化の影響により竜巻や大雨等の異常気象の頻度も高くなっています。



### 水位シール

茨城県建築士会では2015年の災害を忘れないように市内の各所に氾濫水位をイメージしたラベルを貼る活動をしています。



20150910

吊橋付  
本 厅 舎  
JOSO CITY HALL

## 家族を守る建物を研究しています。

新築の建物だけでなく、古い住宅の耐震補強や改築改修は、地震や水害にも強い家にすることができます。家族を守り、安心に生活できる家づくりには、正しい設計と施工が必要です。

茨城県建築士会常総支部では、その土地に合った災害対策や経験に基づいた的確なアドバイスが出来るよう、過去の経験を活かした建築の方法を研究しています。



### 問い合わせ

茨城県建築士会常総支部事務局

電話 0297-42-4072

FAX 0297-42-0481

一般社団法人 茨城県建築士会

電話 0297-305-0329

## 水害に備えた家づくり



## 常総市の歴史と水害

常総市は二つの河川という地勢に恵まれ水運の街として発展しました。しかしそれは同時に水害の危険もはらんだ土地であるということでもあります。平成27年の関東東北豪雨のように気候条件が重なった場合には再び洪水になる危険性があります。しかもそれは温暖化とともにますます大きくなっていくものと思われます。

### 平成27年常総市鬼怒川水害 住家被害状況

全壊	大規模半壊	半壊	床上浸水	床下浸水
53件	1,581件	3,491件	150件	3,066件

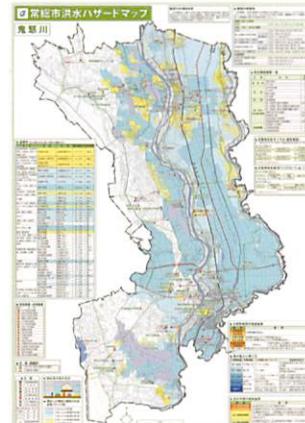
(床上浸水は半壊に至らないもの)



## 地域の経験やノウハウに学びましょう！

住宅そのものと土地の気候や環境とは切っても切れない関係にあり、全国どこでも同じような家づくりが望ましいわけではありません。

台風の接近や豪雨による洪水など、地域によって発生しやすい災害についてはその土地に様々な経験やノウハウが蓄積されています。常総市でも災害発生が想定されるエリアを示したハザードマップが作られていますし、旧地名や古地図がヒントになることもあります。

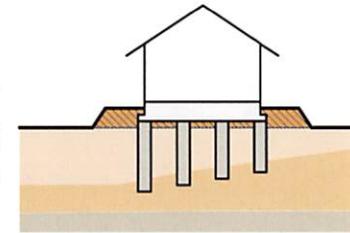


## 水害に負けない家を造りましょう！

2015年の水害から、私たちは多くのことを学びました。今後の建築に役立てるることは、私たち常総市の建築士の使命です。

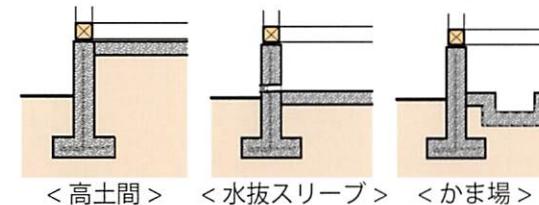
### ■ 地盤は？

盛り土をして地盤を高くすることは浸水に対して有効です。ただし、地盤補強の検討が必要になる場合もあります。



### ■ 基礎は？

水につからない、水がたまりにくい、水が抜けやすいようにするために、地盤面の高さ設定・方式・構造・保守点検方法を検討し、対策を施します。例えば、高基礎・高土間・水抜スリーブ・かま場などで対応することも出来ます。

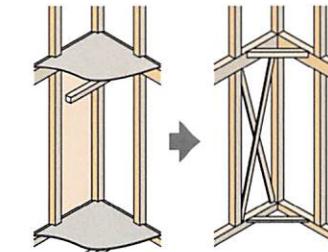


### ■ 仕上材は？

水の影響を受けにくい素材や再利用できる素材を使いましょう。金属やガラスは水の影響をほとんど受けません。木も無垢材なら乾かして再利用が可能な場合がありますが、石膏ボードや合板類は一度水に浸かると使い物にならなくなってしまいます。特に、浸水の可能性の高い床上1mまでについては、その部分までの修理ですむ対策となります。

### ■ 構造は？

集成材や合板類は、強度はありますが濡れると接着剤が弱くなったり、膨らんだりします。水に浸かりやすい高さまでは、濡れても大丈夫なコンクリートや無垢の木材を使用します。



### ■ 断熱材は？

繊維系断熱材は濡れると効果がなくなり、他の材料の腐れ・カビの原因になってしまいます。場所によって発砲系の断熱材を使用するなどの提案をします。



### ■ 設備は？

非常時に使える電源を設置したり、エアコンやボイラーなどの器具類は水につかりにくい高さに設置することも考えられます。



## 水害の影響を受けにくい建物とは？

このパンフレットは浸水水位が1m以下についてです。水位1m以上に対しては、さらに対策が必要です。